

國學院大學

[KOKUGAKUIN UNIVERSITY]

業界のリアルを伝える 就活支援などを通して 「主体的大人」を育てる キャリア教育を実践

企業が採用したい人材の重要な要件として掲げる「主体性」。大学にとって学生の主体性を伸ばすことが大きな課題となっている今、主体性を持ち、自立した「大人」の育成を教育目標として掲げる國學院大學では、どのような取り組みを通して、どのような成果を上げているのだろうか。その詳細をレポートする。

取材・文／伊藤敬太郎 撮影／平山 諭、勝尾 仁

教育目標は“主体性を持ち、自立した「大人」の育成”

1882年に創設された皇典講究所を母体とし、1920年に日本で初めて私立大学として認可を受けた歴史と伝統を持つ國學院大學。現在は、文学部、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部の5学部13学科を擁し(図1)、自国の文化を理解して、世界で活躍できるグローバル人材の育成に努めている。

2002年から推し進めている21世紀研

図1 國學院大學の学部・学科構成

文学部	日本文学科
	中国文学科
	外国語文化学科
	史学科
	哲学科
神道文化学部	神道文化学科
法学部	法律学科
経済学部	経済学科
	経済ネットワーク学科
	経営学科
人間開発学部	初等教育学科
	健康体育学科
	子ども支援学科

究教育計画では、「人文・社会科学系の標(しるべ)となる大学」という将来像と共に、「主体性を持ち、自立した大人の育成」という教育目標を掲げている。

同大学が育成を目指す「主体性を持ち、自立した大人」とは、大人としての教養と分別を備え、自分の人生に責任を持って主体的に生き、変化の激しい社会で自ら道を切り拓く人を意味する。このような人材を育てていくため、同大学では、授業、課外講座、サークル活動、留学、就職活動支援、卒業生や先輩、あるいは学内外の社会人との交流など、多面的な機会提供や支援を実践している(図2)。

授業に関しては、学生の主体的な学びを促進するため、アクティブラーニングを導入。各学部で授業数を増やしつつある。そして、多面的な取り組みのなかでも、学生の主体性を育む鍵となっているのが就職活動支援だ。学生事務部長の藤形正俊氏は次のように語る。

「今の大学生は、就職活動をネガティブにとらえがちです。しかし、学生にとって就職活動は義務ではなく権利。この権利を主体的に活かしてもらいたいという

思いがあり、2年前から本学では就職活動支援の方法を全面的に変えました」

そもそも学生は、働くことの喜びも楽しさも知らない。だから、前向きに就職活動に取り組むことができない。であれば、業界の、仕事の、働く人の“リアル”を伝えることが何より重要なのではないか。この発想から藤形氏らは、まずは職員自身が積極的に企業を訪問し、企業を知るところから改革をスタートした。

“リアル”を知ることが 学生の主体性に灯をつける

その成果の一つが毎年10月半ばから12月の終わりまで、平日はほぼ毎日開催される業界セミナーだ。

「私たちが、ぜひ学生たちに知ってもらいたいと厳選した企業の人事の方に、1日2~4社来ていただき、業界や仕事、求める人物像などのリアルを語っていただいています。また、学生が人事の方と直接話をする時間も設けています。数多くの企業のリアルに触れることで、『この仕事、面白そう』『自分に合っている』『やってみたい』という気持ちが生ま





学生事務部 部長
藤形正俊氏

れる。それが学生を主体的な行動へと
駆り立てるのです」

一方、主体的に活動し、成果を上げ
た先輩たちの事例も学生を目覚めさせ
る。同大学では、質の高い就職活動を
経て内定を得た30人の4年生が、内定
者アドバイザーとしてキャリアサポート課
に常駐。後輩たちがいつでも気軽に相
談できる体制を整えている。

内定者アドバイザーの 体験談が後輩の刺激に

「内定者アドバイザーは、まさに主体的
に動いて結果を出してきた学生ばかり。
年の近い先輩の経験談は、就職活動に
臨む学生にとって大きな刺激になります」

内定者アドバイザーから得られるの
は通り一遍のノウハウだけではない。

「就職活動で壁にぶつかったときに、
先輩たちが自分で考えてどう行動した
かといったエピソードもいろいろと聞くこ

とができます。主体的な行動によって厳
しい状況も打開できることを、先輩の生
の声を通して理解できる。それによっ
て、後輩たちは、自分たちも簡単には諦
めず、自分の頭で打開策を考えて動くこ
とができるようになるのです」

この他、卒業生を招いたOB・OGアド
バイス会、ゼネコン志望者には建設現
場、航空会社志望者には空港といった
仕事の現場を見学する企画など、学生
の「もっと知りたい!」という気持ちに応え
る機会は多様に設けられている。

「あえて業種も志望者層も大きく異な
る2つの企業を同時に招いて、『求める
人材像』などを語っていただくこともあり
ます。すると、一見まったく共通点がない
2社が学生に求めるものが、実は重な
っていたりするんですね。このように、多
くの企業のリアルを知って、自分なりに比
較することで、違いはもちろん、意外な
共通点も見えてくる。参加した学生は
『自分の能力を活かせる場はこんな業
界にもあるんだ!』と新たな気づきを得
て、視野を広げる機会になっています」

リアルを知る→主体的になる(自分か
らもっと知りたくなる)→行動する——
このサイクルは極めて実践的なキャリア教
育として機能し、学生の成長を促す。そ
の結果、同大学の就職活動の質も日に

見えて上がり、安易に就職先を決めな
くなったことで、学生の志向や適性と就職
先とのミスマッチも減っていったという。

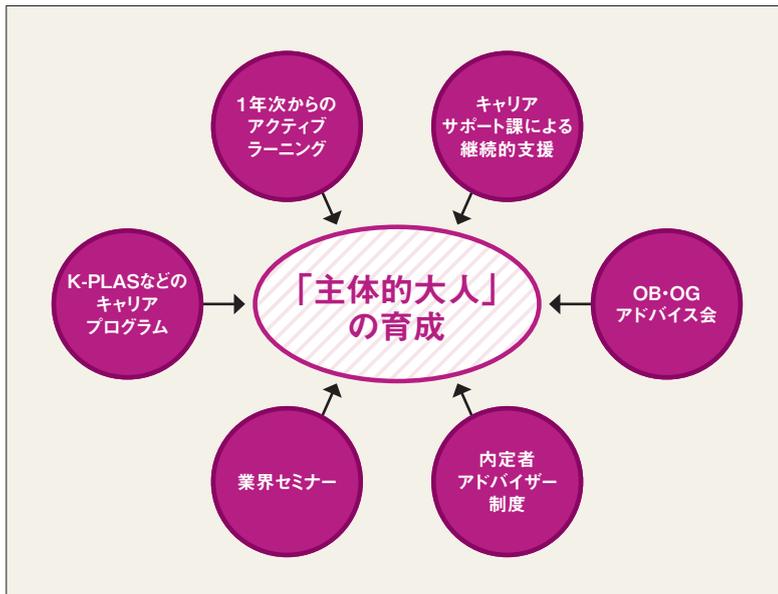
資格試験対策講座でも 主体性の喚起に重点を置く

また、同大学では、国家公務員総合職
や公認会計士志望者向けに「K-PLAS」
というキャリアプログラムも実施。1年次か
ら4年次にかけて段階的に中期目標とな
る資格(公認会計士目標であれば日商
簿記検定3級、2級)を取得しながら難関
資格合格を目指すこのプログラムも、単な
る資格試験対策講座ではない。

「国家公務員や公認会計士の仕事の
魅力、法律や会計を学ぶことの面白さを
しっかりと伝えることで、学生のモチベー
ションを刺激し続けることを意識してい
ます。ここでも大切なのは学生が“主体
的に取り組む”ことなのです」

大学は手取り足取り指導するのでは
なく、発見と気づきの機会を数多く提
供。それによって主体的な学生が増え、
先輩から後輩へ、あるいは同級生同士
で、主体的な行動力が伝播していく。
今、國學院大学には、そのような“主体
性を醸成する場”が形成されている。次
ページでは、そのような学生の実例を紹
介する。

図2 多面的なアプローチで「主体的大人」を育成



綿密なリサーチ、
取材によって業
界事情、内定者体
験談をまとめた冊子



企業の人事担
当者と直接対
話することもで
きる業界セミナー



内定者アドバ
イザーとは、卒業
後も続く人間関
係が形成される
ことも

◎ 卒業生・在学生に聞く



法学部法律学科卒
渡辺健一さん

2016年3月に法学部法律学科を卒業し、4月にリクルート住まいカンパニーに入社。営業担当として活躍し、2年目で早くもユニットリーダーを任されている。

1年次のアクティブラーニングがその後の挑戦の糧に

大学時代には、自分で考えて行動し、結果を出すことの楽しさをいくつも経験しました。一つはインカレのボランティアサークルでの活動です。1年のときにフィリピンで小学生の教育支援に関する活動をしていましたが、どうも私たちの活動が現地のニーズに合っていないと感じて、2カ月ほど現地で生活しながら直接人々の話を聞いて、改善策をサークルに提案。リーダーとして新たな取り組みを引っ張りました。

もう一つは、ヒッチハイクで偶然知った徳島の廃校の再利用プロジェクト。他大学の学生や自治体職員を巻き込んで、クラウドファンディングで資金を集め、大学生の合宿所として

活用してもらうことに成功しました。

できるかどうかわからないことに挑戦するスリルが大好きなんです(笑)。ただし、何かを成し遂げるには人を巻き込む力が不可欠。1年次のアクティブラーニングの授業で、意見をぶつけ合いながらまとめていくプロセスを学ぶことができ、それがその後の活動にも役立ったと感じています。

就職活動時は、50人以上の社会人と会い、自分のやりたいことを伝えてお勧めの企業を聞いて回りました。多くの人に会い、たくさんの社会のリアルを知ることができて楽しかったです。

主体的に動く学生を全力でサポートしてくれる大学

大学に入った時点で、以前から憧れていた客室乗務員(CA)になろうと決めて、そこからは計画的に行動しました。まずは英語力を磨くために早めに留学し、戻ってきたら就職活動に専念しようとプランを立てたんです。

留学については、最初は不安もあったのですが、国際交流課の方から「せっかく留学するならもっと高い目標をもったら?」とアドバイスされ、長期の協定留学にチャレンジできました。留学前に国際交流課で多くの外国人留学生と触れ合い、モチベーションを高められたのもよかったです。英語ができれば多様な

人たちとコミュニケーションができます。その楽しさがあるから、語学の学習も留学も前向きに取り組んできました。

CAを目指して学外のエアラインスクールにも通っていましたが、学内のエアライン業界対策講座(実践編)にも参加。内定者アドバイザーの先輩にもたくさん話を聞きまし、学内の業界セミナーでは航空会社の人事の方に直接質問し、同じ航空会社でも会社によって強みが違うことも理解できました。

國學院大学はやる気のある学生は全力で支援してくれる大学。だからこそ自分で主体的に動くことが大切なんだと思います。



文学部外国語文化学科4年
磯 英莉奈さん
神奈川県立川和高等学校出身

2年の9月から3年の5月にかけて学内の協定留学制度を利用して、カナダへ留学。取材時は航空会社の客室乗務員を目指して、就職活動の真っ最中。



法学部法律学科3年
谷口友星さん
神奈川県立荏田高等学校出身

3年の4月~2月に南アフリカのケープタウンに留学。現地でNGOを立ち上げ、クラウドファンディングを利用して現地の子どもたちのための図書館を設立。

大学で出会った多くの大人・先輩たちが背中を押してくれた

小学4年から東京ヴェルディのクラブチームでサッカーをやっていて、プロを目指していました。しかし、大学1年のときに断念し、今度はビジネスの世界で成功しようと目標を切り替え、2年のときに宅建を取得。知らない世界の知識を学ぶ面白さを知りました。また、これからのビジネスには英語は必須ですから、次は留学をしようと。ただ、単に英語を学ぶだけでなく、未知の世界で何かを成し遂げたかったの、南アフリカへ。ケープタウンでは現地の若者の中に飛び込んでいきました。ほとんど英語ができないうちで行ったのですが、半年経ったころ、突然わかるようになりましたね。

留学前には大学で出会った多くの大人、先輩たちからアドバイスをもらいました。特に業界セミナーで知り合った大手商社の人事部長の方にはインスパイアされましたね。サッカーの世界以外にもこんなカッコいい大人がいるんだと。留学先で現地の人たちと信頼関係を築き、現地に貢献するプロジェクトを実現できたのも、こうした出会いが糧になったからこそだと思っています。

